

英語

日程	大問	出題分野・英文テーマ・形式	設問数	難易度
2月7日	I	長文読解問題（エッセイ） 英文テーマ「異文化間の時間意識の違い」	4	標準
	II	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「米国男女の賃金格差」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する	5	標準
2月8日	VI	長文中の空所補充問題（論説文） 英文テーマ「インターネット上のレビューの信頼性」	15	標準
	I	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「聴力が低下した労働者への対応法」	4	標準
	II	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「Sofia Akel による書籍無償提供キャンペーン」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所	6	標準
2月9日	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文） 英文テーマ「情熱が成功のカギ」	15	標準
	I	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「充実した人生を可能にする『生きがい』」	4	標準
	II	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「ストレスや不安との向き合い方の重要性」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する	12	標準
2月10日	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文） 英文テーマ「アフガニスタン女児への教育支援」	15	標準
	I	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「子供の性別の違いがもたらす父親への影響」	4	標準
	II	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「アダルトチルドレンに対する親の対応法」	4	標準
3月6日	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文） 英文テーマ「ジェイムズ・ウェブ宇宙望遠鏡」	15	標準
	I	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「情報通信技術を活用したマンガ翻訳事情」	4	標準
II	長文読解問題（論説文） 英文テーマ「短期記憶錯覚」	4	標準	

＜出題傾向＞

全日程とも試験時間は60分、すべてマーク式の客観問題である。大問数は6、小問数（マーク数）は52で、設問形式は各日程共通となっている。問題構成は前年までのものにならう形である。難易度については、「やや難」以上の問題は見られず、「標準」レベルに集中している。

各大問を確認していくと、①「長文問題にあたる問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」、②「知識系問題にあたる問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」に大別される。

①「長文問題にあたる問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」では、出典の語数は450語程度であり、それぞれの語数に大幅な違いはない。

問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵは、1題のエッセイ（2月7日・問題Ⅰ）を除けば、すべて論説文に基づく問題である。出典については、2月7日・問題Ⅰを除いて、すべてインターネット上の記事に拠っている。今年度は *Science Journal for Kids and Teens* (<https://www.sciencejournalforkids.org>) から2題出題されている（2月9日・問題Ⅵ、2月10日・問題Ⅰ）。また、*The Guardian* も出典となりやすく、今年度も2つの文章が採用された（2月9日・問題Ⅱ、3月6日・問題Ⅱ）。以前にも同一年度に *Time for Kids*（オンライン版）や *Science News for Students* から複数の文章が採用されたことがある。このように、同一のサイトからの記事が繰り返し出題される傾向を強く見ることができる。

テーマについては、多くがインターネット上の記事を出典としていることからわかるように、最新の時事的テーマを扱っている点が顕著な傾向と言える。子供向けとされるサイトからの記事も少なくないが、テーマは社会の諸問題に及んでいる。全体として特徴的と言えるのは、教育や親子関係を扱う出典が採用されやすい点である（2月8日・問題Ⅱ、2月10日・問題Ⅰ、2月10日・問題Ⅱ、2月10日・問題Ⅵ）。さらに、最新の科学技術（3月6日・問題Ⅰ、3月6日・問題Ⅵ）、環境関連（2月9日・問題Ⅵ）、ジェンダー（2月7日・問題Ⅱ、2月10日・問題Ⅰ）といった時事的テーマも多く見られる。また、生活の営み方を指南するようなメッセージ性の強い出典も数点見られた（2月8日・問題Ⅵ、2月9日・問題Ⅰ、2月9日・問題Ⅱ）。

設問については、問題Ⅰ・Ⅱはいずれも設問数が4であり、本文の内容をバランスよく問うている。質問に対して本文の内容として正しいものを選ぶ問題と、本文の内容に照らして正しい英文を完成させる問題が中心だが、どちらも「内容一致問題」であることに変わりはない。その他に、適切なタイトルを選ぶ問題が出題されることもあるが、総じて本文の趣旨や論理展開への理解を問う問題となっている。まれに、下線部の表現理解を問う設問があるが、これも知識力を問うているというよりは、文脈の中での意味を問われているため、やはり読解力を試す設問と言えるだろう。

問題Ⅵは、本文中の空所を補充する問題である。本文の論理展開の理解が前提となる問題と、基礎的な語彙知識の有無を測る問題に大別することができる。設問対象となる空所の語句は、特定の品詞に偏ることなく出題されている。

②「知識系問題にあたる問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」では、文法・語法・熟語・構文・語彙の知識が問われている。難易度の高い問題を避けつつ、特定分野に偏ることのない出題を心がけていることがしつかり見て取れる問題である。

問題Ⅲの文法・語法・熟語問題は、与えられた短文の空所に入れるのに適切な語句を選ぶ問題であり、文法・語法にとどまらず、熟語の問題も見られる。ただし、問われている事項のレベルは基礎的なものにとどまっている。

問題Ⅳの整序英作文問題は、与えられた和文に対応するように、空所7か所に適切な語句を入れて英文を完成させる問題であり、これは整序英作文では最も典型的な出題パターンである。和

文と英文がかけ離れていて頭を悩ませるような問題はほとんど見受けられず、重要構文の知識をオーソドックスに問う問題となっている。

問題Ⅴの語彙問題は、与えられた定義に対応する語句を選択する問題である。名詞・動詞・形容詞・副詞の語義がまんべんなく問われており、品詞の偏りは見られない。出題されている語彙については、英検2級相当の語句が中心で、問題Ⅵで問われる語彙のレベルと特段違いはないものと考えてよいだろう。

<学習対策>

1) 文法・語法

文法・語法の知識は、問題Ⅲで問われるだけでなく、正確な読解の基盤ともなるため、その習得は英語問題対策としては不可欠である。問題Ⅲで問われる文法・語法の知識は、高等学校で学習する基礎的事項がその大半である。また、いたずらに問題を難しくするような仕掛けも施されていない。したがって、平素に利用する学習用英文法書の例文と解説を十分に理解しておけば、完答が可能であろう。ただし、出題される項目に偏りが少ないことから、まんべんなく全単元を網羅した学習を心がけることが大切である。文法・語法の学習では、学習書の前半単元ばかりに集中するあまり、後半単元では息切れしてしまって、全般にわたった学習を行っていない受験生も少なくない。全範囲からのバランスの取れた出題傾向であることを強く意識して、枝葉末節にこだわるよりも、文法・語法の全体をきちんと俯瞰するような学習を工夫し、実践してほしい。

2) 語彙・熟語・構文

語彙の知識は、語彙問題だけでなく、すべての問題に通じるものであり、文法・語法の知識と並行して定着を図る必要がある。問題ⅤとⅥで問われる語彙のレベルを考えると、英検であれば2級、もしくは共通テストで求められる水準の語彙の定着を図ることで、対策は十分と言えよう。難解な語彙の理解を求められることは少ないことから、語彙の量をむやみに増やすよりは、基礎的な語彙の定着度を上げる工夫が必要となる。「decide=決める」のように語意（むしろ和訳と言ってもよいかもしれない）だけを覚えようとするのではなく、例文を活用しながら単語の意味と用法を併せて覚えたり、特定の単語とともに用いられることの多い表現（コロケーション）をセットで確認したり、音源を活用して耳慣らしをしつつ発声したりすることで、定着度を上げることが可能となるはずである。

語彙の他に、問題Ⅲで熟語の知識が、問題Ⅳで構文の知識が問われている。熟語については、句動詞や群前置詞、形容詞を含むものなど、多岐にわたって出題されている。基礎的な熟語が中心であるため、語彙と同様に、むやみに量を増やすよりは、文脈と共に熟語を確認するといった、定着の質にこだわる勉強が望ましい。

3) 整序英作文

問題Ⅳは整序英作文の問題である。整序英作文では全般的な知識が複合的に問われることから、苦手とする受験生も少なくない。ただし、整序英作文は対応する和文が示され、非常にシンプルな問題であることから、上述の文法・語法・語彙・熟語・構文の知識をきっちりと整理しておけば、十分に完答が可能はずだ。解法と関わることであるが、文を形作る要素としての品詞についての理解が不足していないかを確認しておきたい。選択肢として与えられた単語の品詞がわかれば、文の中でのそのはたらき（どの位置にあって、互いにどんな結びつきをするか）は自ずと絞り込まれる。品詞の理解があることで正解に至る道筋が見えてくるので、まずは品詞のはたらきを整理してもらいたい。その上で、英文の骨格にあたる

主語と述語動詞をあらかじめ確定することで、素早く解答することができるはずだ。

4) 読解

長文問題のうち、問題ⅠとⅡでは、知識分野の問題はなく、本文の正確な内容把握が求められる。正答を導くには、段落ごとの要旨をつかんだ上で、本文の論理展開を大局的にとらえ、設問が本文のどの部分にあたるかを特定しなければならない。つまり、全体の論理展開を正確に把握する力が問われている。筆者の主張はどこか、主張を裏付ける根拠はどこか、具体例はどこか、一般論はどこか、といったことを考えながら、本文中での論理展開を意識して読み進めるよう常日頃から訓練しておくことで、設問内容の該当箇所が見つけやすくなるだろう。また、時事的な出典では、最新の研究や事例を引用しながら筆者の主張が展開されることが多い。筆者の主張と、その主張を支持する根拠とを区別しながら文章を読み進めるようにすることで、読解が容易になる。具体的な研究・調査を紹介している部分を特定し、そこから得られる結論部分がどこにあたるかを見極める練習を繰り返すとよい。また、いわゆるパラグラフ・リーディングという読み方について書かれた本などを参考にして、パラグラフ（段落）の構成・展開についての知識を身につけておくと、ただ英文を日本語に置き換えて意味を取ろうとする読み方の弊害に陥らずにすむだろう。

出典の語数はいずれも450語程度で、大問間の違いが少ないことから、同程度の長さの長文に慣れ親しんでおくとよいだろう。300語前後の長文を集めた問題集でまずは慣らすことから始めて、最終的には500語前後の長文を集めた問題集を仕上げられると心強い。

以上